学校訪問

部活動

諏訪台中学校

西日暮里２－36－８

生徒が部活動を紹介します

自然科学部

▲昨年の文化祭の様子。割れにくいシャボン玉（写真左）と、紙コップで人を支える（写真右）

私達、諏訪台中学校自然科学部は、3年生4人、2年生14人、1年生1人の計19人で活動しています。

毎年秋の文化祭では、舞台発表「科学パフォーマンス」をしています。去年は「人が入れるシャボン玉」や「大気圧でつぶせ一斗缶」を発表しました。今年は、「色が変わる不思議なフラスコ」「熱気球」「落としても割れない生卵容器」「紙コップで人を支える」「割れにくいシャボン玉でキャッチボール」を発表しました。残念ながら、シャボン玉はうまくいきませんでしたが、みんなが喜んで見てくれたのでよかったです。展示の部では、「桜の木やタマネギの皮を使った草木染め」や「リニアモーターカー」「ピタゴラスイッチ」などグループ研究の成果を発表しました。

私達自然科学部は男女とも仲がよく、雰囲気もよくとても楽しいです。みんなで時々カルメ焼きを作って食べることもあります。成功することは少ないのですが楽しくやっています。よく先生に怒られますが、頑張っていきたいです。

目標は「目指せ、ノーベル賞」です。

執筆　２年　小野紗世子

学校自慢

ひぐらし小学校

西日暮里２－32－５

学校の自慢を児童が紹介します

▲▶学校から日暮里駅前までの歩道を清掃する、おそうじ・し隊

ひぐらし小学校では、年間を通じてＪＲＣ（青少年赤十字）の活動に全校で取り組んでいます。ＪＲＣの活動とは健康・安全や国際理解、奉仕活動を学校や家庭生活で行うことです。今年の取り組みを二つ紹介します。一つめは、おそうじ・し隊です。毎月二十日に実施しています。学校から日暮里駅周辺までを掃除します。地域や保護者の方も参加して、日暮里の町をきれいにしています。朝、ゴミが落ちていても放課後にはきれいになって気持ちがいいです。

▶全校遠足（舎人公園）の出発式の様子

二つめは、全校遠足です。十月三日に舎人公園に行きました。スーパーフレンドリー（縦割り班）でオリエンテーリングをします。班のみんなで協力して全部のポイントをクリアしたときは、とても嬉しくなります。午後はクラス遊びもします。長縄や鬼ごっこなどをしてみんなの絆を深めています。帰りには、楽しく一日を過ごすことができた公園に感謝してみんなでゴミ拾いをしています。

私たちはもうすぐ卒業です。この伝統を五年生に引き継いで素晴らしいひぐらし小にしてもらいたいと願っています。

執筆６年　畑中優奈・上村周作　朴世琳・有井昂琉・加藤真由・長谷川美怜

第6回 荒川区の代表選手が奮闘！ 中学生「東京駅伝」

1月19日、第6回中学生「東京駅伝」に出場する代表選手の壮行会を行い、男子・女子の代表選手が力強く宣誓しました。2月8日に大会が行われ、精一杯力を発揮し、男子35位、女子16位、総合22位となりました。

▼激励の言葉を贈る西川区長

▲力強く、「がんばるぞー！えい、えい、おー！」

南千住駅西口ロータリー 芭蕉像が完成しました

昔から多くの俳人が訪れ、俳句にゆかりのある荒川区では、千住大橋から北へ旅立った松尾芭蕉の像を、南千住駅西口ロータリーに建立しました。

みんなで探しに行ってみよう！

平成29年春開設予定 （仮称）荒川二丁目複合施設の愛称が「ゆいの森 あらかわ」に決定

図書館、吉村昭記念文学館、子ども施設などが一体となった複合施設です。たくさんの投票、ありがとうございました。

問合せ　複合施設準備室　☎内線2256

あらかわ今昔ものがたり あらかわの歴史と伝説 その91 松尾芭蕉さんと千住大橋

あらかわは昔から俳句にゆかりの深い町だね。有名な俳人たちと関係があるけど、みんなは、知ってるかな？　なになに？　日ぐらしの里の本行寺の一瓢さんとそのお友だちの小林一茶さん、道灌山を訪れて俳句を詠んだ正岡子規さん。すごい!!　みんなよく知っているね。でも、忘れちゃいけない人がいる。そうそう、旅の心を大切にした松尾芭蕉さんだね。

旅大好き！芭蕉さん

「月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり」。芭蕉さんの紀行文「おくのほそ道」の始まりの部分だ。時の移ろい、人生を旅に例えた文章で、旅好きの芭蕉さんの思いが良く表れているね。

そして、「日々旅にして、旅を栖とす」と言うように、旅が大好きな芭蕉さんは、できるなら、中国の詩人の李白さん・杜甫さん、日本の歌人の西行さんらの大先輩のように、生涯旅をし続けたいと思っていたんだよ。

旅立ちは千住大橋から

元禄2年（1689）3月27日、芭蕉さんは、日もまだ昇っていない早朝、深川（江東区）を出て、船で隅田川を溯っていった。昔、「大曲」と呼ばれた汐入の大きなカーブを左に曲がると、芭蕉さんの目には大きな橋が写った。そう、旅立ちの場所、千住大橋だ。千住大橋は、日光道中に架けられた橋。東北への玄関口で、江戸との別れの場所として知られていたんだよ。

「千住といふ所にて船を上がれば、前途三千里の思ひ胸にふさがりて、幻の巷に離別の涙をそそぐ」。これは「おくのほそ道」の旅立ちの場面の文章だ。芭蕉さんは、千住大橋の近くの川岸から陸に上った。そして、親しい人と別れる際に詠んだのが、みんなも知っている「行く春や鳥啼き魚の目は涙」の矢立初めの句だね。

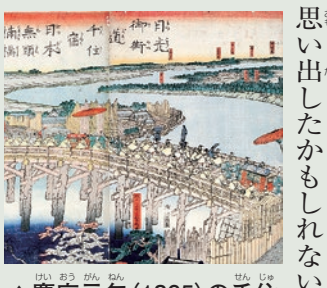
「行く春や」の句を詠み終えた芭蕉さんは、千住大橋を渡り、振り返ることなく北に向かって旅立ったんだってさ。

芭蕉さんも渡った千住大橋

この間、千住大橋の鎮守・熊野神社（南千住6丁目）で槇の植樹祭が行われたんだ。どうして、槇が植えられたのかって？

千住大橋が、文禄3年（1594）徳川家康さんの命令で架けられた立派な木橋だとは知っているよね。特に橋杭には「一度も流されたことが無い」とか「仙台の伊達政宗さんが調達した槇が使われた」等と伝えられている。槇の植樹は、この言い伝えによるものだったんだよ。

芭蕉さんは、奥の細道の旅で仙台を訪れている。その時、政宗さんゆかりの千住大橋を思い出したかもしれないね。



▲慶応元年（1865）の千住大橋の錦絵（部分）

荒川ふるさと文化館企画展「奥の細道・旅立ち展」（3月22日まで開催中）

問合せ　荒川ふるさと文化館　☎（3807）9234

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています。